



慶應義塾大学グローバルCOEプログラム 論理と感性の先端的教育研究拠点

慶應義塾大学 CARLS 哲学・文化人類学グループ公開シンポジウム

医療人類学の最前線III：家族・医療・政策

日時：2009年6月24日(水) 18:00 - 20:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館4階 GSEC セミナー室

医療人類学の最前線シリーズ第三弾では、医学史研究会との共催でプリンストン大学のボロボイ先生、シカゴ大学のゴールドファーブ氏をお迎えし、日本をフィールドにした北米人類学の最新の動向をご紹介します。

ボロボイ先生には、「引きこもり」や発達障害をめぐる教育現場での葛藤についてご講演いただき、ゴールドファーブ氏には日本の少子化と、養子制度・政策に関するお話をいただきます。コメンテーターには、生殖医療・遺伝子技術研究で知られる明治学院大学の柘植先生をお招きし、医療人類学的な家族研究の今後の可能性についてディスカッションを行います。皆様のご参加をお待ちしております。(会費無料、事前登録不要)

Amy Borovoy (East Asian Studies, Princeton University)

What is a Good Society?
Managing Difference and Disability in Japan

Kathryn Goldfarb (Anthropology, University of Chicago)

Reproducing the Body Politic:
Infertility, Adoption, and Japanese Public Policy

柘植あずみ (明治学院大学 医療人類学)

総括コメント

司会：北中淳子 (慶應義塾大学 医療人類学)

主催・企画：慶應義塾大学GCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」文化人類学チーム
<http://www.carls.keio.ac.jp/>

共催：医学史研究会

Centre for Advanced Research
on Logic and Sensibility